

岩槻人形博物館

Iwatsuki Ningyo Museum

No. 00-000-2018作成

新築

美術館・博物館

発注者	さいたま市	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	基本設計 株式会社東畑建築事務所 実施設計 戸田建設株式会社	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携				
施工	戸田建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他				

日本の伝統文化を継承し、地域活性化に寄与する博物館

地域の歴史と立地を踏まえた計画

さいたま市岩槻区は日本有数の人形生産地として知られており、そこに息づく人形作りの技は江戸時代に育まれた伝統の技を引き継いでいる。また岩槻は城下町、宿場町としても栄え、計画地周辺は、北側に宿場町の風情を残す日光御成道、南側に城下町の風情を残す裏小路の道筋が残り、寺社仏閣を含め歴史・文化施設が点在している。

本施設は、岩槻駅から岩槻城跡公園とを結ぶルートの中間となる旧岩槻区役所の跡地に位置し、岩槻の人形文化の保存・継承を目的とし、周囲の歴史・文化施設を含めた、地域の観光ルートの中核をなす施設として、回遊性の向上に寄与し、併設するにぎわい交流館いわつきと合わせ、地域活性化の一翼を担うものとして期待されている。



施設全景（鳥瞰パース）

地域の特性に配慮した伝統的デザイン

周囲に伝統的な街並みが残る計画地の特性を考慮し、建物形状は伝統的な建物をイメージさせる大きな勾配屋根をもったデザインを採用した。また、切妻形状として、建物を分節化することで、周囲の住宅地のボリューム感にも調和するよう配慮している。建物周囲には深い軒庇と、そこに一体的に連続するキャノピーを設け、来館者をやさしく迎え入れ、かつ建物への日射を遮るとともに、地域の通り抜けルートやにぎわい交流館いわつきへの動線としての機能も確保している。



建物外観（イメージ）

自然な素材感を持つ内外装

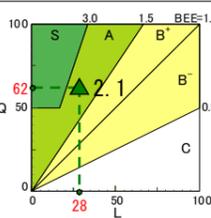
建物のシンボルとなる大屋根には瓦屋根を採用し、地域の歴史・文化施設とも調和のとれた風格のある雰囲気づくりを目指した。外壁はコンクリート打放しの杉板本実型枠を採用し、木目の風合いが感じられるデザインとしている。

内部についても、床の天然石や天然木の天井ルーバー、無垢材フローリングなど、自然の風合いやぬくもりが感じられる素材を採用し、落ち着いた感じられる居心地の良い空間となるよう計画している。



ロビー内観（イメージ）

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 41 %	Aランク
竣工年	LCCO ₂ 削減 21 %	BEE=2.1
敷地面積		さいたま2016年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		



地域への貢献

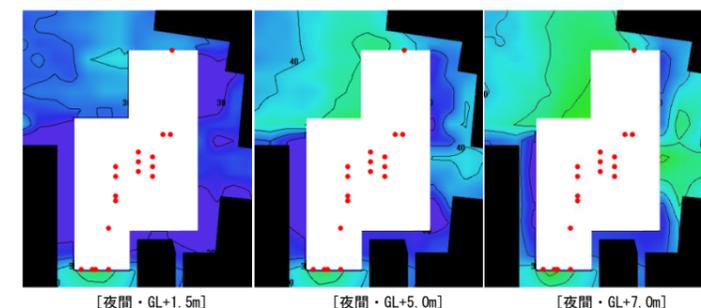
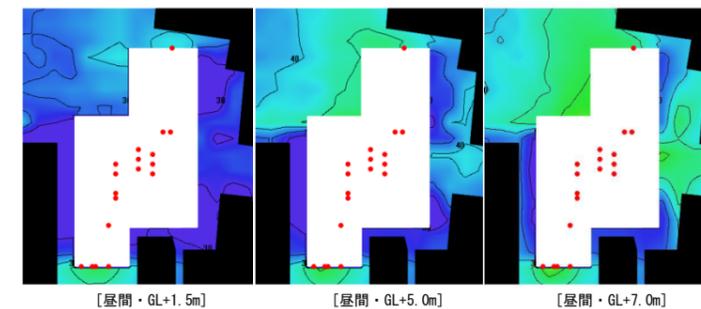
本施設の計画段階において、地域の関係各団体との協議を実施し、お祭り等の大きなイベント時には駐車場をイベント会場として活用することなどを想定した計画としている。また、計画地の南側に位置する裏小路の住民等で構成している裏小路まちなみづくり協議会とも意見交換を行ない、南側の外観デザインや外構計画などに意見を反映し、地域と協調を図った計画としている。

近隣環境への配慮

近隣が住宅地であることを考慮し、建物から発生する騒音が近隣へ与える影響を極力抑えるよう、騒音シミュレーションを行ない、騒音源となる給排気ガラの位置やサイズの見直し等の対策を実施した。

文化財公開承認施設としての室内環境の性能確保

人形専門の博物館施設として、国指定文化財の展示も可能とするため、文化財公開承認施設として文化庁の承認を得られるための性能を確保している。中でも、展示空間の空調については、温湿度・気流シミュレーションを実施し、夏期温度22±1℃、冬期温度24±1℃、湿度55±5%、気流速度1m/s以下を確保できるような計画とした。



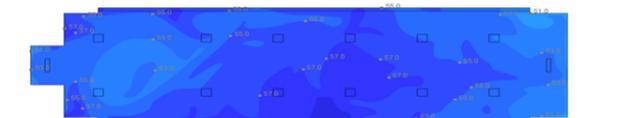
屋外騒音シミュレーション結果



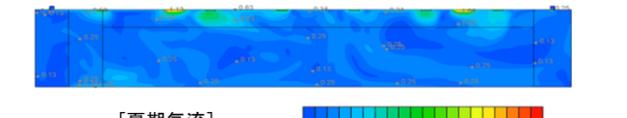
裏小路側の外観（イメージ）



[夏期温度] 15.0 温度 [°C] 29.0



[夏期湿度] 25.0 相対湿度 (%) 75.0



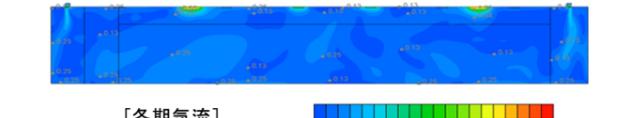
[夏期気流] 0.00 流速 [m/s] 2.50



[冬期温度] 17.0 温度 [°C] 31.0



[冬期湿度] 25.0 相対湿度 (%) 75.0



[冬期気流] 0.00 流速 [m/s] 2.50

展示空間の温湿度・気流シミュレーション結果

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3.2. まちなみ・景観への配慮（伝統的デザインの採用）
- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制（深い軒庇、高性能ガラス採用、開口部を抑制）
- LR1.2. 自然エネルギー利用（太陽光発電、トップライト採光）